

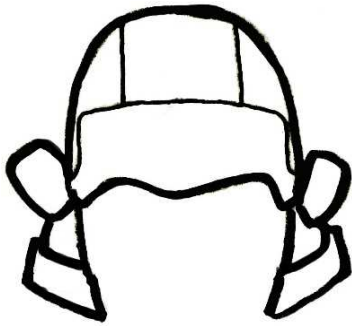
ワークショップ 甲冑武者を組み立てよう！

侍と甲冑のパーツを切り抜いて、着せて完成させます。

- 1) 兜（かぶと）や胴（どう）などの甲冑のパーツに色を塗ります。
※色のぬり方は自由。胴のオモテに模様をいれたりするとカッコよくなります。
- 2) 侍を切り抜きます。
※外側の輪郭線に沿って切ります。
- 3) 甲冑のパーツをひとつずつ、次の順番で切り抜いて、侍に貼りつけていきます。
※下に示した順番は、実際の甲冑を着る順番に近いものです。
(1) 佩楯→(2) 臍当→(3) 胴→(4) 籠手→(5) 頬当→(6) 兜
- 4) 兜には、前立（まえだて）や脇立（わきだて）というかざりが付くことがあります。オリジナルの前立や脇立を付ける、刀や鎗を持たせさせる、幟（のぼり）を背負わせるなど、工夫をすると、さらにカッコよくなります。



1 枚目



⑥a 兜 (かぶと)

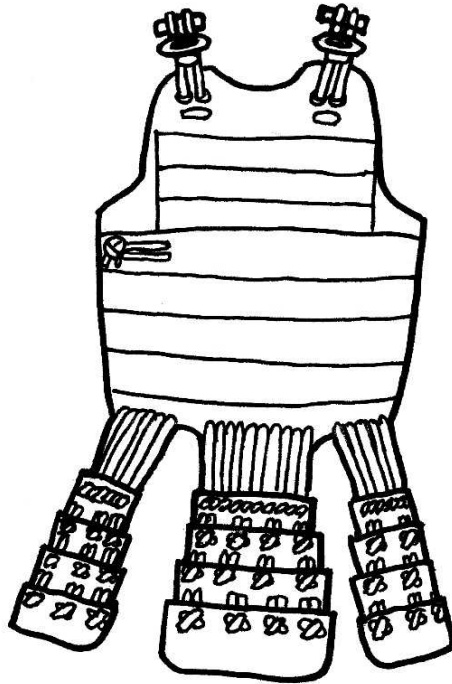
頭形兜 (ずなりかぶと) というかたち。戦国時代ごろから登場した、シンプルながら丈夫でさかんに用いられた。



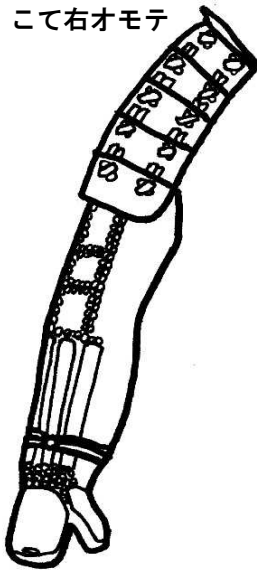
⑤ 頬当 (ほおあて)

あごとほおを守る。下がっている「たれ」がのどを守る。

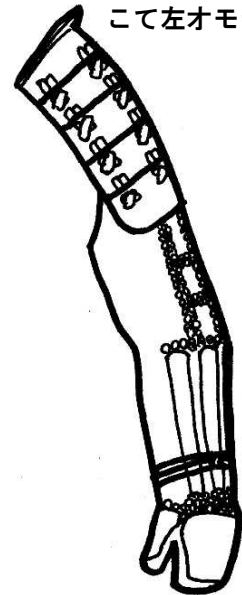
③a 胴 (どう)



こて右オモテ



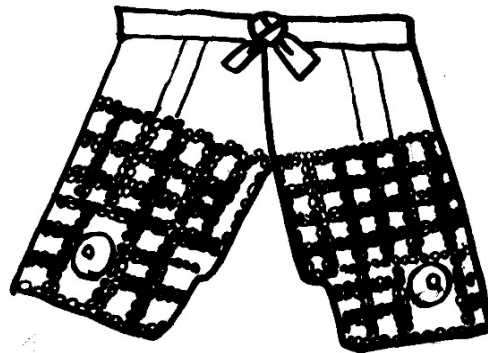
こて左オモテ



④a 籠手 (こて)

うでを守る部分。かたを守る袖 (そで) が一体となった、毘沙門籠手 (びしゃもんこて) のかたちになっている。すばやく身に着けられるような工夫である。

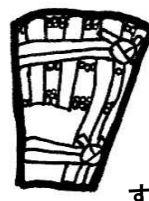
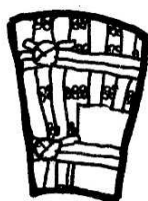
桶側二枚胴 (おけがわにまいどう)。ヨコ長の板をつなげて胴のかたちになっている。前胴と後胴の二枚に分かれ、左ワキを蝶番 (ちょうばん) でつなぐことで開いたり閉じたりできる。



①a 佩楯 (はいだて)

ももやひざを守る。膝鎧 (ひざよろい) とも呼ばれる。ウラ側には足を通すための踏込 (ふんごみ) が付いているかたち。

②a 脛当 (すねあて)



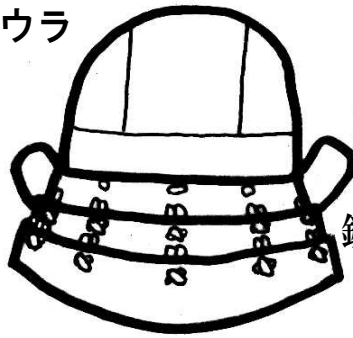
すねをまもる。タテ長の鉄板をならべ、すねに巻き付けるかたちになっている。

2枚目

すねあて右オモテ

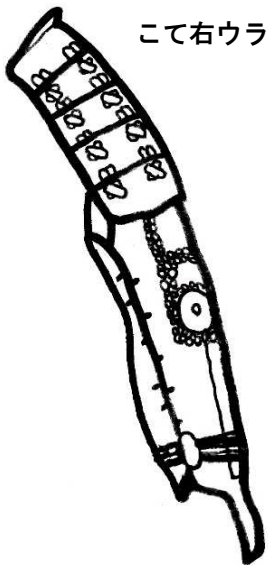
すねあて左オモテ

⑥b 兜（かぶと）ウラ

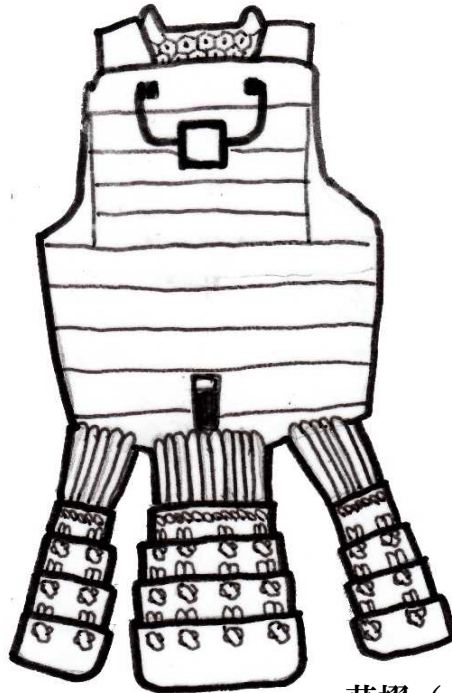


鍔(しころ)
後ろの首すじを守るために鍔(しころ)が下がっている。

③b 胴（どう）



こて右ウラ

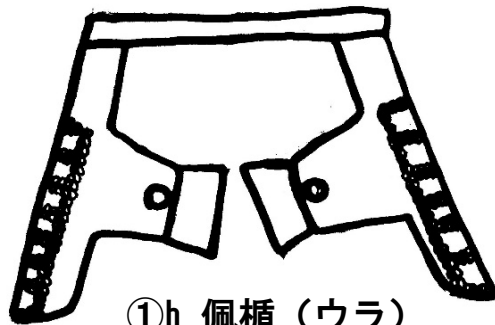


こて左ウラ

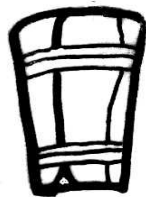
④b 籠手（ウラ）

草摺(くさずり)

草摺(くさずり)は腹や腰を守りながら、動きやすいように、いくつかに分かれている。
この甲冑は6枚(6間)に分かれている。



①b 佩楯（ウラ）



すねあて右ウラ



すねあて左ウラ

②b 臑当（すねあて）

3枚目